

令和元年

第11回彦根市子ども議会会議録

11 月
(11月16日)

彦 根 市 議 会

彦根市子ども議会会議録総目次

11月16日（土）

議事日程	1
本日の会議に付した事件	1
会議に出席した議員	1
会議に欠席した議員	1
議場に出席した事務局職員	1
会議に出席した説明員	2
開会	3
開議	3
会議録署名議員の指名（1番 渡邊幸大朗さん（高宮小学校）、2番 田中優美さん（亀山小学校）、3番 鹿乗誠さん（城南小学校））	3
会期の決定	3
彦根市政について（一般質問）	3
1番 渡邊幸大朗さん（高宮小学校） 質問	4
プログラミングの講習会に力を入れてほしい	4
西嶋教育長 答弁	4
2番 田中優美さん（亀山小学校） 質問	5
交通事故から彦根市の子ども命を守るために	5
藤原都市建設部長 答弁	5
3番 鹿乗誠さん（城南小学校） 質問	6
琵琶湖のゴミ問題への対さくについて	6
鹿谷市民環境部長 答弁	6
4番 藤田こなつさん（城東小学校） 質問	7
みんなが楽しめる水泳場をつくりたい	7
辻産業部長 答弁	8
5番 岸邊璃々泉さん（佐和山小学校） 質問	8
学校生活が楽しく送れるようにエレベーターを設置しよう！！	8
岸田教育部長 答弁	9
6番 若林真央さん（城北小学校） 質問	9
荒神山古墳をみんなに知ってもらうために	9
大久保市長 答弁	10
7番 泉本めぐみさん（稲枝北小学校） 質問	11

彦根市を明るくするために	11
辻産業部長	答弁	11
8番 山田大悟さん(稲枝東小学校)	質問	12
通学路の安全対策について	12
藤原都市建設部長	答弁	12
9番 蒲池往真さん(河瀬小学校)	質問	14
彦根市のフードロス問題について	14
鹿谷市民環境部長	答弁	14
10番 綾木万里菜さん(城東小学校)	質問	15
商店街をもっとにぎやかにしたい	15
大久保市長	答弁	15
11番 福田彩月さん(城南小学校)	質問	16
城南学区の安全対策を進めるために	16
藤原都市建設部長	答弁	17
12番 中久木裕香さん(城北小学校)	質問	18
びわ湖岸のゴミを減らす活動について	18
鹿谷市民環境部長	答弁	18
13番 古川晴大さん(平田小学校)	質問	19
だれにでもやさしい町にするために	19
藤原都市建設部長	答弁	20
14番 西山玄さん(城西小学校)	質問	20
みんなが楽しめる図書室にするために	20
西嶋教育長	答弁	21
15番 上田蒼空さん(稲枝西小学校)	質問	22
彦根城を世界遺産にするために	22
山田副市長	答弁	22
16番 成宮ののかさん(鳥居本小学校)	質問	24
中山道での交通事故を減らすために	24
藤原都市建設部長	答弁	24
17番 林田莉奈さん(旭森小学校)	質問	25
琵琶湖で遊べる施設を増やしてほしい	25
大久保市長	答弁	25
18番 劉孝淳さん(金城小学校)	質問	26
ひこにゃんを広め、豊かな彦根市に	26
山本市長直轄組織参事	答弁	26
19番 伊藤遥菜さん(平田小学校)	質問	27

学校近くの溝について		27
藤原都市建設部長	答弁	27
20番 巴芳代子さん(城陽小学校)	質問	28
安全なまちにするためにコミュニティバスの運行を		28
藤原都市建設部長	答弁	29
21番 多賀泰斗さん(金城小学校)	質問	29
彦根市の防災について		29
谷澤市長直轄組織危機管理監	答弁	30
22番 野村一稀さん(若葉小学校)	質問	31
市民プールの建設について		31
大久保市長	答弁	31
閉会		32

令和元年11月16日

第11回彦根市子ども議会会議録

【第1日】

第11回彦根市子ども議会会議録

令和元年11月16日（土曜日）

議事日程

- 第1 会議録署名議員の指名
- 第2 会期の決定
- 第3 彦根市政について

本日の会議に付した事件

- 日程第1 会議録署名議員の指名
- 日程第2 会期の決定
- 日程第3 彦根市政について

会議に出席した議員（22名）

- | | |
|-----------------------|------------------------|
| 1番 渡 邊 幸大朗 さん（高宮小学校） | 12番 中久木 裕 香 さん（城北小学校） |
| 2番 田 中 優 美 さん（亀山小学校） | 13番 古 川 晴 大 さん（平田小学校） |
| 3番 鹿 乘 誠 さん（城南小学校） | 14番 西 山 玄 さん（城西小学校） |
| 4番 藤 田 こなつ さん（城東小学校） | 15番 上 田 蒼 空 さん（稲枝西小学校） |
| 5番 岸 邊 璃々泉 さん（佐和山小学校） | 16番 成 宮 ののか さん（鳥居本小学校） |
| 6番 若 林 真 央 さん（城北小学校） | 17番 林 田 莉 奈 さん（旭森小学校） |
| 7番 泉 本 めぐみ さん（稲枝北小学校） | 18番 劉 孝 淳 さん（金城小学校） |
| 8番 山 田 大 悟 さん（稲枝東小学校） | 19番 伊 藤 遥 菜 さん（平田小学校） |
| 9番 蒲 池 往 真 さん（河瀬小学校） | 20番 巴 芳代子 さん（城陽小学校） |
| 10番 綾 木 万里菜 さん（城東小学校） | 21番 多 賀 泰 斗 さん（金城小学校） |
| 11番 福 田 彩 月 さん（城南小学校） | 22番 野 村 一 稀 さん（若葉小学校） |

会議に欠席した議員（なし）

議場に出席した事務局職員

- 事務局 長 廣 瀬 淳
- 事務局 次長 北 坂 崇
- 書 記 長 尾 俊 宏

会議に出席した説明員

市長	大久保 貴 さん	産業部長	辻 宏 育 さん
副市長	山田 静 男 さん	都市建設部長	藤原 弘 さん
市長直轄組織参事	山本 茂 春 さん	上下水道部長	安居 庄 二 さん
市長直轄組織危機管理監	谷 澤 幸 治 さん	会計管理者	山 縣 忠 一 さん
企画振興部長	犬井 義 夫 さん	病院事務局長	馬 場 完 之 さん
企画振興部参事併教育委員会事務局参事	西山 武 さん	消 防 長	岡 田 広 幸 さん
総務部長併選挙管理委員会事務局長	牧野 正 さん	教 育 長	西 嶋 良 年 さん
総務部参事	長野 繁 樹 さん	教 育 部 長	岸 田 道 幸 さん
市民環境部長	鹿谷 勉 さん	企画振興部次長	牛 澤 淳 さん
福祉保健部長	田 中 一 朗 さん	総務部副参事兼財政課長	北 村 典 彦 さん
子ども未来部長	高 橋 嘉 子 さん		

○議会事務局長（廣瀬 淳さん） 本日は、第11回子ども議会にお越しいただき、ありがとうございます。

ご来場の皆様をお願いします。子ども議会取材のため、議場内に報道機関が入って撮影をされますので、ご了承いただきますようお願いいたします。保護者の皆様、傍聴者の皆様には、本会議中の撮影は今お座りいただいている傍聴席からのみとさせていただきますが、本会議終了後に撮影時間を設けさせていただいておりますので、議場内での撮影は本会議終了後にお願いをします。なお、議場内は飲食禁止とさせていただいております。また、携帯電話をお持ちの方は、電源を切っていただくか、マナーモードの設定をお願いいたします。

それでは、第1グループの議長、野村一稀さん、議長席へお願いします。

午後1時30分開会

○第1グループ議長（野村一稀さん） 最初に議長をします若葉小学校、野村一稀です。よろしくをお願いします。

ただいまから第11回彦根市子ども議会を開会します。

ただちに会議を始めます。

日程第1 会議録署名議員の指名

○第1グループ議長（野村一稀さん） 日程第1、会議録署名議員を指名します。

会議録署名議員に1番渡邊幸大朗さん、2番田中優美さん、3番鹿乗誠さんを指名します。

日程第2 会期の決定

○第1グループ議長（野村一稀さん） 日程第2、会期の決定を議題とします。

お聞きします。今回の彦根市子ども議会の会期は、本日1日としたいと思います。これに異議はありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○第1グループ議長（野村一稀さん） 異議なしと判断します。

今回の彦根市子ども議会の会期は、本日1日と決定しました。

日程第3 彦根市政について（一般質問）

○第1グループ議長（野村一稀さん） 日程第3、彦根市政についてを議題とし、質問を行います。

22名の皆さんから質問が提出されていますので、三つのグループに分けて行います。

まず、第1グループの順番は、1番渡邊幸大朗さん、2番田中優美さん、3番鹿乗誠さん、4番藤田こなつさん、5番岸邊璃々泉さん、6番若林真央さん、7番泉本めぐみさん、

8番山田大悟さんの順とし、順番に質問席まで来て質問してください。

1番渡邊幸大朗さん。渡邊さん。

〔1番（渡邊幸大朗さん）登壇〕

○1番（渡邊幸大朗さん） 「プログラミングの講習会に力を入れてほしい」

私は、プログラミングの講習会に力を入れることについて提案します。

来年から小学校の授業ではプログラミング教育が取り入れられ、必ずプログラミングについて勉強しなければなりません。私たちの将来はロボットが中心となって仕事をする世界になると言われています。さらには、私たちが大人になったときには、そのロボットを動かすプログラムを作れる人材が必要になってくると思います。

私は現在、彦根市のプログラミング教育の講習会に参加していて、とてもおもしろく勉強しています。だから、小学校の授業でプログラミングに興味を持ち、プログラミングの技術をさらに向上させるために、市の講習会の内容を充実させてほしいと思います。

そこで、私は、プログラミング教育の講習会に使う予算を確保し、講習会の内容を増やすことでプログラミングの技術を向上させたいと思う人が増えると考えます。さらに、大人になってもプログラミングができることを長所とし、その長所を仕事として活躍できる人材が育てられると思います。

私は、プログラミングの講習会に使う費用を市の予算で確保し、講習会の内容を増やすことを提案します。

○第1グループ議長（野村一稀さん） 教育長。

○教育長（西嶋良年さん） 渡邊さんのおっしゃるとおり、令和2年度から小学校においてプログラミング教育が必修化となります。

プログラミング教育の狙いは、プログラミングに興味を持ち、技術を学ぶこともありますが、技術の習得以上に「プログラミング的思考」、つまり「論理的に考える力」を身につけることとされています。

お尋ねのプログラミング技術の向上につきましては、本市では平成21年度から彦根市サイエンスプロジェクト推進事業を実施し、基礎的な技能を習得できるよう環境整備に努めてきました。当時は、民間団体によるプログラミング教室などは少なかったため、市がロボット講座を主催し、プログラミング技術を学べる場所づくりをしてきました。その中から世界大会に出場をし、輝かしい成績をおさめた方もおられます。私たちも、微力ではありますが、支援できたことをとても誇らしく思うと同時に大変うれしく感じているところです。

そういった中で、最近では、民間団体主催のプログラミング講座・ロボット教室などが市内でたくさん開催されるようになってきました。

そのため、市では民間団体が取り組まれている事業に協力をしていきたいと考えています。協力をすることで皆さんが参加する機会がさらに増え、皆さんの技術の向上につながっていくと考えています。

○第1グループ議長（野村一稀さん） 渡邊さん。

〔1番（渡邊幸大朗さん）登壇〕

○1番（渡邊幸大朗さん） これで私の提案を終わります。

ありがとうございました。

○第1グループ議長（野村一稀さん） 2番田中優美さん。田中さん。

〔2番（田中優美さん）登壇〕

○2番（田中優美さん） 「交通事故から彦根市の子どもを守るために」

私は、交通事故から彦根市の子どもを守るための対策について質問します。

今年の5月に大津市で散歩中の保育園児ら16人が死傷した交通事故がありました。その事故を受けて大津市は散歩ルートを実際に歩いて点検し、ガードレールなどの整備を約100カ所で行ったと聞きました。

また、自分が住んでいる楡町は家が多く並んでいて見通しが悪く、狭い道がたくさんあります。私が自転車で遊びに出かけるとき、交差点で車が通り、交通事故に巻き込まれそうになったことがあります。私はそのとき、カーブミラーがあれば、より安全に遊びに出かけることができたのではないかと思いました。

交通事故から子どもの安全を守るために彦根市はどのような対策をしていますか。また、私たちにできる対策も教えてほしいです。

○第1グループ議長（野村一稀さん） 都市建設部長。

○都市建設部長（藤原 弘さん） 田中さんの「交通事故から彦根市の子どもを守るために」についてお答えをさせていただきます。

彦根市では、今年の5月に大津市の交差点で発生した保育園児が巻き込まれた大きな事故を受けまして、市内の交通量の多い交差点を緊急に点検いたしました。対策の必要となる箇所において、今後、順次工事を実施することとしております。

また、交通安全に対する取り組みといたしましては、今お答えしました交差点の安全対策を行う以外にも、川などと道路に段差がある箇所にはガードレールを取りつけることや、田中さんが言われましたように、見通しの悪い箇所にはカーブミラーをつけること、交差点や横断歩道がある箇所の夜の安全対策として照明灯をつけることを行なっております。

また、通学路の安全対策としまして、学校の先生や警察の方々と一緒に点検をして、危険な箇所の確認や対策工事を行っております。さらに、今年度は、幼稚園や保育園の園児の散歩ルート等についても点検を行い、対策が必要な箇所については、グリーンベルトやラインなどの設置の工事を今後進めていく予定でございます。

そのほか、地域の皆さんや警察の方などと連携をしまして、登校時の見守りや安全運転に対する啓発活動を行っていますほか、小学校などで交通安全教室なども行っております。

市では安全対策として、カーブミラーなどの施設の設置や啓発の活動、また交通安全教室なども、これからさらに進めてまいります。田中さんや皆さん、お一人おひとりがで

きることにしましては、まずは交通ルールをしっかりと守っていただき、道路を横断する際には左右の安全確認でありますとか、飛び出しをしないことを心がけていただき、登校時や学校生活の中で下級生の方の見本となるようなリーダーになっていただきたいと思います。

○第1グループ議長（野村一稀さん） 田中さん。

〔2番（田中優美さん）登壇〕

○2番（田中優美さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。

○第1グループ議長（野村一稀さん） 3番鹿乗誠さん。鹿乗さん。

〔3番（鹿乗 誠さん）登壇〕

○3番（鹿乗 誠さん） 「琵琶湖のゴミ問題への対さくについて」

僕は、きれいな琵琶湖にするための取り組みについて提案します。

彦根市の松原水泳場では今年も鳥人間コンテストが行われました。2018年には2万5,000人ももの来場者が日本各地から訪れました。

しかし、今の琵琶湖はきれいとは言えません。みんなが琵琶湖に捨てたごみや河川から流れ込んだごみが琵琶湖を汚しています。

僕は、きれいな琵琶湖するために二つのことを提案します。

一つ目は、今年、G20で共有された大阪ブルーオーシャンビジョンを参考に、彦根ブルーオーシャンビジョンに取り組むことです。大阪ブルーオーシャンビジョンとは、海洋プラスチックごみ問題による新たな汚染を2050年までにゼロにすることを目指したものです。その取り組みを参考に彦根ブルーオーシャンビジョンに取り組む、彦根市が一体となって琵琶湖をきれいにする活動を進めていくべきだと思います。みんなにごみ問題を意識してもらうために、僕を含めた小学生などに琵琶湖の清掃をしてもらい、琵琶湖がどれくらい汚れているのかを知ってもらい、琵琶湖をきれいにしてもらいたいと思います。

二つ目は、ポイ捨てを防ぐために、ごみ箱の設置やポイ捨て防止の看板をつくることです。ごみ箱が置いてあればポイ捨てをする人も減るかもしれないし、看板があると呼びかけてくれる人もいるかもしれないからです。

来年は東京オリンピックが開催され、滋賀県を訪れる観光客が増えることが予想されます。僕は、きれいな琵琶湖を見もらうために、彦根市が一体となって取り組むことを提案します。

○第1グループ議長（野村一稀さん） 市民環境部長。

○市民環境部長（鹿谷 勉さん） 鹿乗さんの「琵琶湖のゴミ問題への対さくについて」のご質問にお答えいたします。

彦根市では、琵琶湖をきれいにする取り組みとして、「びわ湖の日」環境美化活動や、夏の観光シーズン前の清掃、彦根・北びわ湖大花火大会開催翌日の清掃など、ボランティアによる湖岸の清掃を実施していますが、その際にプラスチックごみをはじめ、さまざま

なごみが回収されています。

鹿乗さんのご質問の大阪ブルーオーシャンビジョンをつくるきっかけになったプラスチックごみは、大きく分けて二つのことで多くなったと考えています。

一つ目は、昔と比べプラスチック製品が増えたということです。皆さんがふだん食べるお菓子の袋やおもちゃなど、昔は紙や木などの素材で作られていたものが、安く大量につくれることでプラスチックへと変わってきました。

二つ目は、プラスチックが丈夫で腐らないということです。そのため、プラスチックを使ったさまざまな製品が作られてきました。しかし、紙や木製品のように腐ることがないので、いつまでもごみとして残り続けてしまうのです。

これら二つのことは、彦根市だけの取り組みで、なくしていくには限界がありますので、琵琶湖のある滋賀県と県内の市や町全体でブルーオーシャンビジョンのような取り組みをする必要があると思います。また、国の法律として琵琶湖の環境を守るべく、「琵琶湖保全再生法」が作られ、国でも琵琶湖の環境を守る動きが進んでおり、彦根市も国などと協力しながら琵琶湖の保全に取り組んでいきたいと考えています。

次に、ポイ捨て防止看板をつくることですが、既に看板は滋賀県、彦根市ともにつくっており、地域住民の方にもお配りして設置していただくなど、協力をしていただいています。また、ごみ箱の設置は考えていませんが、ボランティア活動で集められたごみの処分や回収も行うなど、皆さんの協力を得ながら、きれいな琵琶湖にするように取り組んでいきたいと考えています。

○第1グループ議長（野村一稀さん） 鹿乗さん。

〔3番（鹿乗 誠さん）登壇〕

○3番（鹿乗 誠さん） ありがとうございます。

これで僕の提案を終わります。

○第1グループ議長（野村一稀さん） 4番藤田こなつさん。藤田さん。

〔4番（藤田こなつさん）登壇、資料掲示〕

○4番（藤田こなつさん） 「みんなが楽しめる水泳場をつくりたい」

私は、彦根に大人も子どもも楽しめる水泳場をつくることを提案します。

彦根には楽しく泳げる市民プールがありません。泳ぎに行くには長浜などの遠くのプールへ行かなくてはならないので、行けない人も多いと思います。

しかし、彦根市には松原水泳場や新海浜水泳場があります。中でも、松原水泳場は松林がとってもきれいです。松ぼっくりなども落ちていて、秋の美しい風景が味わえます。また、晴れている日は夕日がとってもきれいに見えます。そんな魅力いっぱいの松原水泳場をもっと活気あふれる場所にしたいのです。

次のように提案します。

1、小さな琵琶湖水族館をつくる。2、日陰をもっと琵琶湖の近くにつくる。3、琵琶湖の家のようなお店をつくる。4、水上テーマパークをつくる。5、松林にハンモックを

かける。6、月1回ごみ拾いをする。

このように、私は、松原水泳場を大人も子どもも楽しめる、にぎわいのある水泳場にすることを提案します。

○第1グループ議長（野村一稀さん） 産業部長。

○産業部長（辻 宏育さん） それでは、私から藤田さんの「みんなが楽しめる水泳場をつくりたい」というご提案についてお答えいたします。

松原水泳場をもっと活気あふれるものにするための幾つものご提案、ありがとうございました。また、わかりやすい資料をご提示いただき、ご説明いただき、ありがとうございます。

琵琶湖は一級河川でございまして、砂浜を含めて滋賀県が管理しています。このため、市では夏の時期だけ県に砂浜と水面を借りて水泳場を開設しています。

今年の水泳場は7月20日の土曜日から8月18日の日曜日までの30日間開設し、松原水泳場と新海浜水泳場を合わせて約1万人の方に来ていただきました。泳ぐだけでなく、松林の木陰で琵琶湖を眺めたり、水泳場近くにあるお店でかき氷を食べている方もおられて、夏の思い出を松原水泳場で作っていただけたと考えています。

ご提案いただきました松原浜に「小さな琵琶湖水族館」や「水上テーマパーク」など新しい建物を建てて遊べるようにすることも一つの考えですけれども、松原浜は彦根八景に選ばれていて、ここから見る夕日の景色は本当に美しく、この美しい景色や松林の景観とともに琵琶湖の貴重な自然を守っていくことも大切です。現在、滋賀県や琵琶湖周辺の市で、琵琶湖の自然を守りながら琵琶湖のよりよい活用について検討しているところでございます。みんなが楽しめる施設の整備などは、このきれいな景色や自然に影響のないように考えていく必要があります。

このような中、ご提案いただいたように、この松原浜に訪れた人がごみを出さないように気をつけ、自分たちでごみ拾いをするのはとても大切なことですから、市でも7月と8月に皆さんのご協力を得ながら湖岸清掃を行っています。

これからも市民の皆さんや滋賀県とともに、多くの人にこの美しい松原浜の風景や琵琶湖の自然を感じていただけるように、砂浜や松林などの環境を守りながら、楽しんでいただこうと思っています。

○第1グループ議長（野村一稀さん） 藤田さん。

〔4番（藤田こなつさん）登壇〕

○4番（藤田こなつさん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。

○第1グループ議長（野村一稀さん） 5番岸邊璃々泉さん。岸邊さん。

〔5番（岸邊璃々泉さん）登壇〕

○5番（岸邊璃々泉さん） 「学校生活を楽しく送れるようにエレベーターを設置しよう！！」

私は、佐和山小学校にエレベーターを設置したほうがいいと思います。

なぜかという、足をけがして松葉づえで校内を歩いている友達を見たときに、階段が上りにくそうで困っていたからです。もし自分だったら、友達に迷惑をかけたくないし、教室に行く時間も遅くなって焦ってしまいます。私は友達を見て、つらいだろうな、どうしたらもっと安心できるのかなと思いました。

ある日、お母さんと買い物に行ったときに、車椅子の人がエレベーターを使っていて、安心して自分で上れると思いました。誰でもどこでも安心して生活ができるので、学校にもエレベーターがあると、学校にいるみんなが安心して生活できると思いました。

だから、私たちの佐和山小学校にもエレベーターがあれば、誰もが学校生活を楽しく送れると思うから、学校にエレベーターを設置してほしいと思います。

○第1グループ議長（野村一稀さん） 教育部長。

○教育部長（岸田道幸さん） 岸邊さんが、階段を上りにくそうな友達の様子を見て、その子の気持ちに寄り添い、けがをした子の移動方法に問題意識を持たれたことは大変すばらしいことだと思います。

彦根市教育委員会としては、けがや病気、障害のある人もない人も、皆さんにとって利用しやすい学校施設となるように建物などの修繕を行っています。その内容としましては、学校の階段に手すりをつけたり、昇降口や体育館入り口などに段差があればスロープを取りつけたり、またバリアフリートイレなどの整備も行っていきます。

ご提案のエレベーターについては、校舎の強さや設置できる場所の確保などのつくりや耐震性のこと、さらには設置費用が非常に高額なこともあるため、全ての学校に設置することは難しい状況です。そのため、エレベーターの代わりに車椅子に乗ったまま階段を上れる階段昇降機というものを教育委員会で用意しており、必要に応じて学校に貸し出して対応をしています。

また、エレベーターなどの設備の整備をすることも大切ですが、岸邊さんのように、一人ひとりが相手の立場になって考え、行動することで誰もが安心して学校生活を送ることができると思っています。

○第1グループ議長（野村一稀さん） 岸邊さん。

〔5番（岸邊璃々泉さん）登壇〕

○5番（岸邊璃々泉さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。

○第1グループ議長（野村一稀さん） 6番若林真央さん。若林さん。

〔6番（若林真央さん）登壇〕

○6番（若林真央さん） 「荒神山古墳をみんなに知ってもらうために」

彦根市にある荒神山古墳を彦根市の小学校のみんなに知ってもらいたいと思います。

なぜかという、4年生で荒神山合宿に参加してウォークラリーをしたときの荒神山の自然がとても心に残っているからです。鳥や虫がたくさんいて、居心地がいいのだろうな

と思いました。

それから荒神山のことについて気になったので調べてみると、荒神山古墳があり、約1500年前に築かれた前方後円墳であることがわかって驚きました。埴輪が出土され、国の史跡指定を受けているそうです。前方後円墳と言えば、7月に世界遺産になった大仙古墳と同じで、うれしく感じました。こんな貴重な荒神山古墳をみんなにもっと知ってもらいたいと思います。

例えば、彦根市の全17小学校が荒神山で宿泊体験をするときに、荒神山古墳について学習したり、社会や総合的な学習の時間に荒神山古墳について調べたりするなど工夫をするとういと思います。

私は、こんなに古い貴重な古墳が身近にあるので、それを守っていくためにも、彦根市の小学校のみんなに知ってもらう取り組みを提案します。

○第1グループ議長（野村一稀さん） 市長。

○市長（大久保 貴さん） 若林真央さんのお尋ねにお答え申し上げます。

荒神山古墳は、今から約1600年前の4世紀末ごろ、古墳時代前期に築かれた全長124メートルの県内でも2番目の規模を誇る大きな古墳です。

彦根市では、平成15年度から平成20年度にかけて古墳の構造や時代、特徴といったものを明らかにするための調査を4回実施し、その結果、荒神山古墳が滋賀県の湖東地域の古墳時代を考える上で大変重要な遺跡であるということがわかり、平成23年に国から史跡として指定をいただきました。

若林さんがこの荒神山古墳に関心を持っていただいて、市内の小学生の皆さんにも知っていただくための提案をいただきましたことは、大変大切な歴史資産を保存し、未来に引き継いでいくことにつながる第一歩であって、ありがたい提案だと思っています。

ご提案にありました荒神山での合宿においては、森林学習が主な目的でございまして、限られた日程の中で荒神山古墳についても学ぶということは時間的に難しいと聞いていますが、6年生の社会科では「縄文のむらから古墳のくにへ」という単元の中で、古墳とそれらにかかわる人々の働きや代表的な文化遺産などについて学ぶ機会があって、その際に荒神山古墳を紹介している学校もあると聞いておりまして、私としては、さらにこうした紹介が全校で行われるように期待をしたいと思っています。

また、学校の授業ではありませんけれども、彦根市では多くの方に荒神山古墳を知っていただくために、荒神山古墳に近いJR河瀬駅の自由通路を利用した荒神山を紹介するコーナーや、駅舎の壁面に荒神山古墳の案内看板の設置を行い、また自治会や地域の団体の方々からの依頼によって、依頼先や現地に出向いて文化財をわかりやすく解説するといったことも行っています。

今後も、このような取り組みやホームページでの情報掲載などを通じて、小学生の皆さんをはじめ、多くの方に荒神山古墳を知っていただけるよう努力をしていきたいと考えております。

○第1グループ議長（野村一稀さん） 若林さん。

〔6番（若林真央さん）登壇〕

○6番（若林真央さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。

○第1グループ議長（野村一稀さん） 7番泉本めぐみさん。泉本さん。

〔7番（泉本めぐみさん）登壇〕

○7番（泉本めぐみさん） 「彦根市を明るくするために」

私は、曾根沼に遊園地やショッピングセンター、レストランがあり、みんなが楽しむことができる「曾根沼ひこにゃんランド」をつくることを提案します。

私は4年生のときに曾根沼のことについて勉強しました。干拓することで田んぼや梨園などはできたけれども、まだまだ空き地がたくさんあることを知りました。また、曾根沼のある稲枝には生活用品を買う店や楽しく食事をするレストランがなく、遠くまで行かないと買えないので困っています。

そこで、たくさんの人が集まる遊園地や欲しいものが何でも買えるショッピングセンターがある「曾根沼ひこにゃんランド」をつくって、何もない空き地を楽しくて便利な場所に変えたいです。ひこにゃんを遊園地のイメージキャラクターにしたり、レストランで彦根梨や琵琶湖でとれた魚を食べられるようにすることで、彦根のよさを感じてもらえたいと思います。

そんな施設をつくってくれる企業を誘致するために思い切った税金の免除をすることが必要だと思います。今、彦根市には企業を誘致するために1年間の税金を100%免除する制度があると聞いていますが、5年間の免除にすれば企業が来てくれると思います。

私は、みんなが何度も行きたいと思う、楽しくて便利な「曾根沼ひこにゃんランド」を曾根沼につくることを提案します。

○第1グループ議長（野村一稀さん） 産業部長。

○産業部長（辻 宏育さん） それでは、泉本さんの「曾根沼ひこにゃんランド」をつくることについてお答えをいたします。

ご質問の曾根沼地区は、昔は内湖と呼ばれる琵琶湖の一部でしたが、食糧の生産量を増やすことを目的に50年ほど前に干拓工事が行われて農地となりました。そして、20年ほど前に農地の再整備が行われ、彦根梨として知られる梨園ができました。そのときに田んぼや梨園以外に利用するための土地もつくられました。

この田んぼや梨園以外の土地は、曾根沼の地域に合った利用を目指して、今までたくさんの計画が立てられました。しかし、干拓した場所なので地盤がとても弱く、ご提案のような「ショッピングセンター」や「曾根沼ひこにゃんランド」のような大きな建物を建てることのできないことなどから今まで利用がされないままとなっています。

現在も、地域の皆さんを中心に、滋賀県や彦根市も一緒になって、この土地をどのように利用するのがよいのか、話し合いをしているところでございます。みんなが楽しめるよ

うになればいいなと思っているところです。

泉さんがご提案のみんなが何度でも行きたいと思う、楽しくて便利な「曾根沼ひこにゃんランド」のようなものをつくるためには、いろいろな課題がありますが、これからも地域の皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。

なお、ご質問にあった企業誘致の際に税金を免除する制度ですが、大変よく調べていただいたと感心いたしました。彦根市では企業が新しく建物を建てたり、増やしたりするときには、市の条例によって奨励金を出す制度があります。これは納めた税金分を奨励金として企業に交付するもので3年間受けることができます。1年目は100%、2年目は75%、3年目は50%受けることができるもので、大変企業誘致に役立っています。しかし、泉さんが考えていただいた「曾根沼ひこにゃんランド」には、申しわけないのですが、使えないのが残念です。しかしながら、魅力のある企業が彦根市に来てもらえるように今後もしていきたいと思っています。

○第1グループ議長（野村一稀さん） 泉さん。

〔7番（泉本めぐみさん）登壇〕

○7番（泉本めぐみさん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。

○第1グループ議長（野村一稀さん） 8番山田大悟さん。山田さん。

〔8番（山田大悟さん）登壇〕

○8番（山田大悟さん） 「通学路の安全対策について」

私は、通学路の安全対策について提案があります。

私の学区の通学路は道幅がとても狭く、車通りも大変激しく、いつ大きな事故が起きるかとても心配しています。このままでは先日大津で起きたような悲しい事故が起きてしまう可能性もあります。

私の住んでいる稲枝学区では道路脇用水路がむき出しの状態、もし車が突っ込んできた場合、よけようがありません。そこで、通学路の道幅を少しでも広げるために、用水路の溝に鉄骨のふたを敷くなどの対策をしてみたいかと思いますが、鉄骨のふたを敷くだけで約1メートルほど道幅が広がり、安全に登校できるようになると考えます。

また、私が通う通学路では車道に縁石の設置が行われていません。縁石を設置すると、いざというときに車から身を守れるだけでなく、ドライバーの視点から車道と歩道の境目がはっきりとわかるようになると思います。

そこで、通学路の安全対策について、彦根市の取り組みと私の提案について答弁をお願いします。

○第1グループ議長（野村一稀さん） 都市建設部長。

○都市建設部長（藤原 弘さん） 山田さんの「通学路の安全対策について」お答えをいたします。

まず、小学校の通学路の安全対策についての市の取り組みですが、山田さんが通学され

ています稲枝東小学校をはじめ、彦根市内17の小学校区全てに、毎年5月ごろ、各小学校から通学路の中で危険と感じる箇所を報告していただき、学校の先生や警察の方々と一緒に点検をして、危険な箇所の確認や対策工事を行っています。

また、対策工事の後には、工事が行われた箇所が本当に安全になったのかを確認し、まだ不十分ということであれば、さらに安全対策を行うこととしております。

山田さんが通っておられる稲枝東小学校の通学路では、これまでに道路にグリーンベルトを設置することや、川への転落を防止するための柵の設置、また、歩行者専用の橋を設置するなどの安全対策を行ってまいりました。

次に、山田さんからご提案をいただきました水路にふたを設置して道幅を広くすることにつきましては、確かに歩行者にとっては広くなって通行しやすくなりますが、ふたをかけることによって水路の断面、大きさが小さくなってしまい、大雨のときに水があふれてしまうことや、また、掃除などの維持管理がしにくくなりますので、市ではできる限り水路などにはふたをかけないようにしております。

次に、縁石の設置でございますけれども、山田さんが言われるとおり、歩行者と車、車道を分離することで歩行者の安全を確保し、ドライバーもわかりやすくなります。ただ、道路の幅によっては、縁石を設置することにより、車道の幅が狭くなって車が通行しにくくなってしまうこともあります。こうしたことから、道路の幅や交通量などの道路の状況に応じて縁石を設置することとしております。

今後も通学路の安全対策を進め、皆さんが安全に安心して通っていただけるよう努めてまいりたいと思っております。

○第1グループ議長（野村一稀さん） 山田さん。

〔8番（山田大悟さん）登壇〕

○8番（山田大悟さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。

○第1グループ議長（野村一稀さん） しばらくの間、休憩します。

○議会事務局長（廣瀬 淳さん） 休憩は10分程度とします。

午後2時10分休憩

午後2時19分再開

○第2グループ議長（山田大悟さん） 議長を交代しました。稲枝東小学校、山田大悟です。よろしく申し上げます。

休憩の前に続いて会議を開きます。

第2グループの順番は、9番蒲池往真さん、10番綾木万里菜さん、11番福田彩月さん、12番中久木裕香さん、13番古川晴大さん、14番西山玄さん、15番上田蒼空さんの順番とし、順番に質問席まで来て質問してください。

9番蒲池往真さん。蒲池さん。

〔9番（蒲池往真さん）登壇〕

○9番（蒲池往真さん） 「彦根市のフードロス問題について」

僕は、彦根市のフードロス問題について提案します。

僕の学校では残菜ゼロ週間というものがあり、各クラスが目標を立てて、その目標を達成したかを確認して、達成できた日が多いクラスを校内の放送で流すという活動があり、みんなが取り組んでいます。

ヨーロッパでは、大手スーパーでの食品の廃棄を法律で禁止しているそうです。大阪では、賞味期限切れの食べ物を専門的に取り扱うお店があるそうです。彦根市では、フードロスを伝える活動やフードバンクという活動をしている施設があることを知りました。

そこで、僕はフードロスを防ぐために全予約制のレストランをつくることを提案します。この全予約制のレストランでは、前日に予約することでお店のロスをなくす目的があります。

僕は、彦根市が食品ロスを推奨するまちとして全国で有名になってほしいと思うので、彦根市に全予約制レストランをつくることを提案します。

○第2グループ議長（山田大悟さん） 市民環境部長。

○市民環境部長（鹿谷 勉さん） 蒲池さんの「彦根市のフードロス問題について」のご質問にお答えいたします。

フードロス問題は、ご存じのように、近年、節分の日の後に売れ残って捨てられる恵方巻のニュースなどをはじめとして、全国でも大きな問題となっています。そのような中、蒲池さんの通う河瀬小学校では、残菜ゼロを目指して全校で取り組まれているのは大変すばらしいことだと感心しています。彦根市でも、忘年会や新年会などの宴会が行われる年末年始の時期などに、宴会の始めの30分と終わりの10分は席について料理を楽しみ、食べ切りましょうという「30・10運動」を市役所の職員や市民の皆さんのほか、市内の飲食店へも訪問して呼びかけ、協力をお願いするなどの取り組みを行っています。

蒲池さんが提案される全予約制のレストランについてですが、レストランなどの飲食店を全予約制にすれば、お店も必要な食材の量が事前にわかり、余計な食材を準備しておかなくてもよくなるため、食品ロスの削減に大きくつながることでしょう。しかし、その一方で、お店には事前に予約したお客さんだけでなく、飛び入りのお客さんにもできるだけたくさん来てもらうとか、お客さんにおかわりなど、できるだけたくさん注文してもらうことでお店を繁盛させたいという思いもあり、全予約制とするには課題もあるようです。

しかし、いずれにしても、食品ロスを減らすことは、捨てられる食品が減って環境の保護につながることであり、また、お店側も余計な食材を仕入れなくてよい分、余計な出費が減って利益が増えるなどメリットは多いです。

彦根市としては、蒲池さんの学校のように、食品ロス削減に向けた取り組みを今後も継続しつつ、彦根市の飲食店の皆さんにはいろいろな工夫をしていただいて、食品ロスゼロを推奨するまち彦根をともに築ければ、すばらしいことだと考えていますので、これから

もよいアイデアの提案や食品ロス削減への取り組みにご協力をお願いしたいと思います。

○第2グループ議長（山田大悟さん） 蒲池さん。

〔9番（蒲池往真さん）登壇〕

○9番（蒲池往真さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。

○第2グループ議長（山田大悟さん） 10番綾木万里菜さん。綾木さん。

〔10番（綾木万里菜さん）登壇〕

○10番（綾木万里菜さん） 「商店街をもっとにぎやかにしたい」

私は、商店街をもっとにぎやかにして観光客を増やしたいです。彦根の観光地として商店街を活性化する取り組みを提案します。

私の住む城東学区には幾つもの商店街があります。2年生のころには、まち探検をして商店街に親しみができました。毎年8月に行われる彦根ばやしのときや、11月に行われるゑびす講のときは地元の人や観光客でいっぱいです。しかし、それ以外の平日は活気がないように思います。今の商店街はシャッターが閉まっている店もたくさんあり、城下町の華やかさが少し足りないと思います。城下町という特徴をもっと生かせないでしょうか。

だから、私は商店街が活性化し、観光客を増やすために次のことを提案します。ポイントは「インスタ映え」です。

まず、彦根で有名なひこにゃんが商店街にも来てほしいと思っています。商店街のキャラクターでもある「ゑびすくん」とコラボしたり、ひこにゃんみたいに「何時に出ます」というお知らせをつくったりして、「ゑびすくん」もひこにゃんと同じくらいの知名度になってほしいです。あわせて、一緒に写真が撮れる「インスタ映え」スポットを何か所か設置します。

次に、「インスタ映え」に欠かせないインパクトのある食べ物を開発したらいいと思います。そのために、「インスタ映え」コンテストを開いてみてはどうでしょうか。私の考えたメニューとしては、期間限定スイーツとして彦根梨のパフェなど、ご当地食材を使ったら彦根らしさが出ていいと思いました。

これらの取り組みにより、若い観光客も増えることは間違いありません。「インスタ映え」スポットを増やし、私たちの大切な商店街を活性化し、観光地として全国に名をとどろかせていくことを私は強く提案します。

○第2グループ議長（山田大悟さん） 市長。

○市長（大久保 貴さん） 綾木万里菜さんのご質問にお答えをいたします。

まず最初に、「インスタ映え」のために「ゑびすくん」を活用するという点についてですが、「ゑびすくん」は銀座商店街のキャラクターで銀座商店街を中心に活動をされています。8月のサマーナイトフェスティバルや、ひこにゃんも参加をしました10月のご当地キャラ博、11月のゑびす講などに出演をしていました。これからも商店街などで開催されるいろんなイベントに出てくれるものだと思いますし、綾木さんが期待をしておられる

旨を銀座街の人にもお伝えしたいと思います。

ただ、ひこにゃんとコラボするのは、なかなか、ひこにゃんが忙しいので難しいかもわかりませんが、今申し上げたような機会を捉えて、コラボができればなと思っています。

次に、「インスタ映え」に欠かせないインパクトのある食べ物の開発について、現在の彦根市の取り組みを紹介したいと思います。彦根の食材を使った「井伊櫛グランプリ」の開催や、一流料理人をお招きして料理セミナーの開催によって、新しい料理メニューの開発を今行っています。また、「ひこね梅と食と光のフェア」や「近江牛の新作フェア」を開催して、新作メニューを知ってもらうようにしています。そして、彦根の梨を使ったスイーツやデザートを彦根市内のお店で食べることができる「ひこね梨さんぽ」というイベントも行っています。

このように、これからも彦根で収穫された野菜や果物を使った「おいしい食べ物」を皆さんに協力をいただいて開発をしていきたいと考えています。

ほかにも、「彦根フォトコンテスト」を開催しております、この「彦根フォトコンテスト」は彦根市内で開催される観光イベントや彦根の自然風景、彦根城やお寺などの写真のコンテストで、今年は16回目に当たります。応募作品は「インスタ映え」するものも多くございますので、これらの「インスタ映え」のスポットや「おいしい食べ物」などの情報をインターネットやパンフレットを利用しながら広く知ってもらい、多くの観光客が彦根に来ていただいて、お店や商店街がにぎわうようになればと思っています。

また、彦根市が現在運営しておりますインスタグラム「lovehiko」というのがありまして、ぜひ綾木さんも「インスタ映え」する写真を投稿していただけて、にぎやかにしていただけたらと思います。よろしくお願いします。

○第2グループ議長（山田大悟さん） 綾木さん。

〔10番（綾木万里菜さん）登壇〕

○10番（綾木万里菜さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。

○第2グループ議長（山田大悟さん） 11番福田彩月さん。福田さん。

〔11番（福田彩月さん）登壇、資料掲示〕

○11番（福田彩月さん） 「城南学区の安全対策を進めるために」

城南学区の安全対策を進めるために、横断歩道に信号をつけることと狭い道幅を広くすることを提案します。

一つ目は、子どもの交通事故を防ぐために全部の横断歩道に信号をつけることです。理由は、私の弟は実際に信号のない横断歩道を渡って車にひかれました。そのようなことが二度と起きないように、横断歩道を渡るときは私自身も左右確認をして気をつけています。しかし、左右確認をしていても、車側の方は信号がないとスピードを緩めず、そのまま進んできてしまいます。車を運転する人に注意をしてもらうためにも、横断歩道に信号をつけてほしいと思います。

なので、私はインターネットで次のことを調べてきました。

まず、信号機の値段についてです。定周期信号機が約470万円します。押しボタン式信号機が約270万円、一灯式信号機は約100万円。標識の値段についてです。1本当たり30万円から40万円します。

次に、信号機のない横断歩道における歩行者優先の実態調査についてです。

全国平均が17.1%です。1位が長野県68.6%、2位は静岡県52.8%、3位は兵庫県43.2%です。一方、滋賀県は11.2%で32位でした。

次に、一時停止しない理由についてです。

一つ目は、自分の車が停止しても対向車が停止しないから、44.9%。2、後続から車が来ておらず、自車が通り過ぎたら歩行者が通れると思うから、41.1%。3、横断歩道に歩行者がいても渡るかわからないから、38.4%です。

1位の長野県の取り組みについてです。交通マナーとして「とまってもらうまで、きちんと待つ」、「とまってもらったら挨拶をする」、「車が出るときに、また挨拶をする」です。そして、歩行者側もすることです。「横断するときにドライバーに意思表示をする」、「左右確認をする」です。

二つ目は、道幅をもう少し広くすることです。特に十王の水から犬上川までの道幅が狭く危ないです。理由は、私も何度か通っていますが、車との距離がとても近く、ぶつかりそうになるときもあるし、私の友達もよく通るけれども、狭くて通りづらいついていたからです。この道には安全のためにグリーンベルトがつけられています。しかし、車と車がすれ違うときにグリーンベルトにはみ出してくるので十分安全とは言えません。ですから、道幅をもう少し広くしてほしいです。

城南学区では、2024年の国民スポーツ大会に向けて新市民体育センターの建設が進められています。このスポーツ大会には全国からたくさんの人々が来られると思います。なので、より一層の安全確保のためにも、横断歩道に信号をつけることと狭い道幅を広くすることを提案します。

○第2グループ議長（山田大悟さん） 都市建設部長。

○都市建設部長（藤原 弘さん） 福田さんの「城南学区の安全対策を進めるために」についてお答えをいたします。

まず、全部の横断歩道に信号機をつけることですが、福田さんのご提案のとおり、全ての横断歩道に信号機をつければ、歩行者はより安全になります。

ですが、横断歩道は彦根市内だけでも数多く存在しておりまして、全てに信号機をつけると、車の流れを悪くし、市内のあちこちで渋滞を発生させることになります。

また、信号機を管轄する警察では、信号機の設置については、車の交通量や道路の形態など一定のルールを設けて、そのルールに合った交差点などに信号機をつけられています。このため、全ての横断歩道に信号機をつけることは難しいのですが、道路交通法という法律では、横断歩道は歩行者優先を義務づけておりまして、警察のほうでは横断歩道での取

り締まりを最近特に強化されています。

福田さんが今、示していただきました資料では、滋賀県が32位と平均以下という実態の調査結果になっておりますけれども、1位の長野県のほうに近づくには、ドライバーや歩行者の皆さんが交通ルール、マナーを守っていただくことが一番重要なことだと思っております。今後も皆さんとともに交通安全意識の向上を図ってまいりたいと思います。

次に、道幅をもう少し広くすることについてですが、このご提案の道路は滋賀県が管理している道路で交通量が多いのですが、道幅も狭く歩道もございません。この道路を広げるためには、道路沿いの土地を買うことや家を移転していただくなど、生活をしておられる人には大変大きな影響を与えることとなります。このため、現状の道路が少しでも安全になるように滋賀県とともに検討をしていきたいと思っております。

現在、城南学区では新市民体育センター建設に向けた整備を進めており、また、その周辺では歩道のバリアフリー化などの整備を行っております。また、皆さんの通学路も学校の先生や警察の方々と一緒に点検し、安全対策を行うことを重点的に取り組んでおります。これからも通行される皆様の安全を第一に考えて対策を進めてまいりたいと思っております。

○第2グループ議長（山田大悟さん） 福田さん。

〔11番（福田彩月さん）登壇〕

○11番（福田彩月さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。

○第2グループ議長（山田大悟さん） 12番中久木裕香さん。中久木さん。

〔12番（中久木裕香さん）登壇〕

○12番（中久木裕香さん） 「びわ湖岸のゴミを減らす活動について」

私は、琵琶湖岸のごみを減らすための取り組みについて質問します。

松原浜には、たばこの吸い殻やお菓子の袋、ガラスの破片など、いろいろなごみが捨ててあります。湖岸をはだして歩いたり走ったりする人をたまに見かけることがありますが、ガラスの破片などのごみを踏むと足を切ってしまう可能性があって危険だと思います。また、ごみがあると琵琶湖も汚くなるし、見ても気分がよくありません。

城北小学校では年に1回湖岸清掃をしています。みんなで松原浜に行って、ごみを拾います。予想以上にたくさんのごみが毎年回収されています。しかし、完全にはきれいになりませんでした。湖岸清掃の二、三日後に松原浜に行ったら、ごみが増え、清掃前の松原浜に戻ってしまっていました。

彦根市は琵琶湖岸をきれいにするために、どんなことをしていますか。教えてください。

○第2グループ議長（山田大悟さん） 市民環境部長。

○市民環境部長（鹿谷 勉さん） 中久木さんの「びわ湖岸のゴミを減らす活動について」のご質問にお答えいたします。

彦根市が実施する琵琶湖岸をきれいにする活動ですが、今年度を実施した例を挙げますと、まず6月に、ボランティア総勢約700名で湖岸一帯の清掃を実施した「びわ湖の日」

環境美化活動をはじめ、7月には松原浜の水泳場開きや鳥人間コンテストなどの夏の観光シーズンに入る前に実施したボランティア清掃、また、8月に彦根・北びわ湖大花火大会が開催された翌日にもボランティア清掃を実施しました。今ご紹介したのは彦根市が主になって実施した活動ですが、湖岸の清掃活動は彦根市だけに限らず、中久木さんが通う城北小学校をはじめとする学校や自治会、会社などの企業、市民グループなどによっても多数実施されており、年間を通して多くの方々が琵琶湖岸の清掃に取り組んでいます。今年度は企業にもご協力をいただいて、ビーチクリーナーと言われる清掃車両を彦根で初めて使った清掃も行われました。

清掃した直後はきれいになりますが、中久木さんが言われるように、数日たつと、また清掃前のごみのある状態に戻ってしまうのが現状です。これは、湖岸にごみを捨てている人がいることもありますが、それよりも彦根市内外の他の地域から流れ着くごみが多いのが主な原因となっています。ごみは、琵琶湖を囲む他の地域から流れ着いたり、琵琶湖に注ぐ川を流れて入り込んでくるものなども多いことから、琵琶湖を囲む市町や、また、琵琶湖から離れたところであっても、琵琶湖に注ぐ川の周辺で生活する人たちなど、みんなが一体となって、ごみをポイ捨てしない、落ちているごみを清掃するなど、環境美化に向けた取り組みを継続して行うことが必要です。

私たち彦根市も、きれいな琵琶湖を守りたいという中久木さんと同じ思いを持って取り組んでいきますので、今後とも清掃へのご協力をよろしくお願いします。

○第2グループ議長（山田大悟さん） 中久木さん。

〔12番（中久木裕香さん）登壇〕

○12番（中久木裕香さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。

○第2グループ議長（山田大悟さん） 13番古川晴大さん。古川さん。

〔13番（古川晴大さん）登壇、資料掲示〕

○13番（古川晴大さん） 「だれにでもやさしい町にするために」

彦根市には、たくさんの外国人観光客が来られます。また、彦根市に住んでいる外国の人も増えてきました。そこで、僕は、みんなに優しい彦根市にするために、外国語の看板の設置を提案します。

僕が住んでいる平田町には押しボタン式の歩行者信号が幾つかあります。僕は、そこでボタンを押さずに、ずっと信号待ちをしている外国の人に出会い、ボタンを押してあげたことが何度かありました。その人たちはボタンを押して横断歩道を渡るということがわからない様子でした。なので、ボタンを押さないといけないことを知らせる外国語の看板があるといいと思います。

また、平田町には平田川という大きな川があります。平田川は、ふだんは水量が少ないけれども、大雨になると道まで水があふれることがあります。なのに、危険を知らせる看板がありません。そこで、僕は、平田川に外国の人にも小さな子どもにも、わかりやすい

看板を設置してほしいと思います。

彦根市を訪れる外国の人は、これからもさらに増えると思います。彦根市を訪れる観光客や彦根市に住む外国の人も安心して過ごせるように、外国語の看板を設置し、みんなに優しい彦根市にすることを提案します。

○第2グループ議長（山田大悟さん） 都市建設部長。

○都市建設部長（藤原 弘さん） 古川さんの「だれにでもやさしい町にするために」についてお答えをいたします。

まず、押しボタン式信号機についてですが、古川さんが体験されたように、押しボタン式信号機の使い方がわからなく、道路を横断できずに困っている外国人の方がおられます。

現在、東京や大阪の警察では、押しボタン式信号機の使い方をわかりやすく説明した英語、中国語、韓国語などが書かれた案内板を一部取りつけられております。

彦根市を含めた滋賀県内では、彦根署に確認をしましたが、現在のところ、押しボタン式信号機への外国語の案内表示板は設置されていませんが、今後、外国人の方がさらに増えてくれば設置の検討ができるのではないかと聞いておりますので、古川さんの提案を彦根署にお伝えし、検討していただけるようお願いをしたいと思います。

次に、大きな川に危険を知らせる看板を設置することは非常に重要なことだと思います。ご提案の平田川については、管理しております滋賀県に確認をしましたところ、現在、看板は設置されておませんが、滋賀県としましては、平田町内の平田川は川の幅も狭く、あふれやすいために、まずは川をあふれにくくするための対策を検討していきたいと聞いております。

また、芹川や犬上川などは看板が設置されていますが、現在、日本語表記のみであるため、今後、外国人の方々にもわかりやすい看板の設置も検討していきたいと滋賀県から聞いています。

なお、彦根市では大雨で川があふれるなどの危険性が高まった場合には避難所を開設しておりますが、避難所や避難所への道順などを知らせる看板や標識は、外国語の表示やピクトグラムという絵文字も使ったものに順次取り替えているところです。

今後も、多くの外国人の方とともに地域に暮らす一員として安心して過ごせるよう、誰もが住みやすいまちづくりを進めていきたいと考えております。

○第2グループ議長（山田大悟さん） 古川さん。

〔13番（古川晴大さん）登壇〕

○13番（古川晴大さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。

○第2グループ議長（山田大悟さん） 14番西山玄さん。西山さん。

〔14番（西山 玄さん）登壇〕

○14番（西山 玄さん） 「みんなが楽しめる図書室にするために」

僕は、学校の図書室をみんなが楽しめる図書室にすることを提案します。

毎日、休み時間に僕は図書室に行って、たくさんの本を読んでいます。1カ月に10冊ほど本を借りています。なぜ僕が本が好きなのかというと、本を読むことにより、いろんな知識が増えて、今の世の中のことがよくわかるからです。また、世の中のいろいろなことが自分にとって身近になるからです。

僕は歴史人物の本が好きで、特に豊臣秀吉の本が好きです。織田信長に仕えて出世していったことや天下を統一していったことなど、戦国時代のことが手にとるようにわかりました。

ほかにも思い出に残っている本は、お札の秘密を書いている本です。偽札を防ぐ工夫やお札のつくり方がよくわかりました。この本を読んで気になったことを自由研究の課題にして調べました。このように本を読むことによって世界や考え方がどんどん広がっていきます。だから、僕はみんなにも図書室に来てもらって、本をたくさん読んで本を好きになってほしいと思いました。

そこで、みんなが楽しめる図書室にするために、僕は二つの提案をします。一つ目は、新しい本を増やし、本の種類を増やすことです。もう一つは、くつろげるスペースをつくることです。ゆったりとした時間を過ごせるように、カーペットやソファなどを置くことよいと思いました。また、このようなスペースがあると、劇をする人を呼ぶこともできます。

僕は、このように図書室を充実させて、みんなが楽しめる図書室にすることを提案します。

○第2グループ議長（山田大悟さん） 教育長。

○教育長（西嶋良年さん） 本を読むことで、世界や考え方がどんどん広がっていくということを西山さんが楽しくおもしろく感じておられることが大変よく伝わってきました。

西山さんのご提案のうち、まず新しい本を増やすことについてですが、本の冊数は学校の規模、大きさに応じて国の基準があり、整備するための予算を毎年学校にお渡しして、新しい本を学校のほうで購入していただいています。どんな本を買うかについては、図書の担当の先生や、学校におられる読書活動支援員さんなどを中心に考えていただいていますので、もっとこんな本があったらいいなという希望がありましたら、ぜひ図書の担当の先生などに伝えてみてください。

次に、くつろげるスペースをつくることについて、西山さんのお考えは、まずはカーペットやソファを置いたり、劇をする人を呼んだりして、図書室をよりよい楽しい環境にし、多くの人に図書室に来てもらうきっかけをつくろうというご提案だと思います。ソファを買ったりカーペットを敷くということは、なかなかすぐにできることではありませんが、本の魅力を伝えるということについては、すぐにでもできることだと考えています。例えば、もう既に取り組まれているかもしれませんが、その本の魅力を本の帯やポスターにまとめて図書室などに掲示をしたり、昼休みなどにお勧めの本を読み聞かせする「お話し会」を開いたりするなど、友達とアイデアを出しながら、さらに工夫していただけると、

西山さんがご提案のみんなが楽しめる図書室になるのではないかと考えています。

○第2グループ議長（山田大悟さん） 西山さん。

〔14番（西山 玄さん）登壇〕

○14番（西山 玄さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。

○第2グループ議長（山田大悟さん） 15番上田蒼空さん。上田さん。

〔15番（上田蒼空さん）登壇〕

○15番（上田蒼空さん） 「彦根城を世界遺産にするために」

僕は、彦根城を世界遺産にするために、市内や県内の人だけでなく、日本中、世界中の人たちに彦根城のことを知ってもらえるような積極的なPR活動をするを提案します。

彦根城は今から27年前に一番最初に世界遺産登録の暫定リストに載りました。しかし、いまだに世界遺産になっていません。27年間選ばれなかったのは、彦根城のことをみんなが余り知らなかったり、彦根城を世界遺産にすることに対して、みんなの思いが足りなかったりしたからだと考えます。

また、彦根市の財政状況が厳しいと聞いたことがあります。彦根城が世界遺産になれば、観光客が増え、市の財政が豊かになります。そうすると、医療費の助成ができたり、図書館の本を増やしたり、学校の備品や施設を整えたりすることができ、市民にとって暮らしやすいまちになります。

そこで、二つのことを提案します。一つ目は「大人にできるPR活動」です。彦根城を世界遺産にするために動画などが作成され、ユーチューブにも公開されているようですが、余り知られていないようです。彦根市出身の有名人にも協力してもらうことで、もっと多くの人に関心を持ってもらえるのではないかと思います。

二つ目は「子どもにできるPR活動」です。彦根市内の小学6年生で彦根城世界遺産登録を進めるチームをつくります。彦根城についてのパンフレットを制作することなどを通して、もっと彦根城のことを知り、彦根城について、いろいろな人たちに呼びかけてもらうこともできます。

このように、彦根城を世界遺産登録するために積極的にPR活動をするを提案します。

○第2グループ議長（山田大悟さん） 副市長。

○副市長（山田静男さん） それでは、上田さんの「彦根城を世界遺産にするために」についてお答えします。

彦根城を世界遺産に登録するためには、世界遺産にふさわしい彦根城の価値を見つけ出し、彦根城をしっかりと保存かつ管理をするための仕組みを整える必要がございます。それと同時に、上田さんが感じておられるように、多くの人たちに彦根城のことをもっとよく知っていただき、彦根城を世界遺産にしたいと思う気持ちを高めていくことが大切でございます。そこで、市内の小学生に関心を持ってもらうため、毎年、市内の小学6年生に

彦根城を紹介する冊子を配布しておりまして、昨年度は小学生全員に世界遺産の自由帳をお配りいたしました。

上田さんの二つのご提案のうち、彦根市出身の有名人にPR活動に協力してもらって、もっと多くの人たちに彦根城の世界遺産登録に対して関心を持ってもらうことは、とても大切と思いますが、まずは彦根城に最も身近な市民の皆様に、彦根城に対する関心を高めさせていただき、さらに、彦根城の世界遺産登録に向けまして日常的にできることは何かを考えていただくことが大変重要だと思います。例えば、家庭や地域、職場などで彦根城を話題に取り上げ、これから先、みんなの宝物である彦根城を守っていくためにはどうしたらいいのか、自分たちにできることを見つけていただけるよう、彦根市のホームページやパンフレットなどを通じて、彦根城の世界遺産登録にかかわるさまざまな情報の提供をしていきたいと思っています。

続いて、二つ目の提案でございます、彦根の子どもたちに彦根城の魅力を伝えるパンフレットをつくってもらうことは、パンフレットを制作した子どもたちはもちろん、パンフレットを手にとった人たちの理解を深める、よいアイデアだと思います。彦根市ではここ数年、彦根市に職場体験に来た市内の中学生に、彦根城の世界遺産登録をテーマとするポスターづくりに取り組んでもらい、すばらしい作品を提出してもらいました。彦根市内の小学生にも、彦根城のパンフレットやポスター制作に取り組んでもらえるよう検討したいと思っています。

以上でございます。

○第2グループ議長（山田大悟さん） 上田さん。

〔15番（上田蒼空さん）登壇〕

○15番（上田蒼空さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。

○第2グループ議長（山田大悟さん） しばらくの間、休憩します。

○議会事務局長（廣瀬 淳さん） 休憩は15分程度とします。

午後2時59分休憩

午後3時11分再開

○第3グループ議長（上田蒼空さん） 議長を交代しました。稲枝西小学校、上田蒼空です。よろしく申し上げます。

休憩の前に続いて会議を開きます。

第3グループの順番は、16番成宮ののかさん、17番林田莉奈さん、18番劉孝淳さん、19番伊藤遥菜さん、20番巴芳代子さん、21番多賀泰斗さん、22番野村一稀さんの順とし、順番に質問席まで来て質問してください。

16番成宮ののかさん。成宮さん。

〔16番（成宮ののかさん）登壇〕

○16番（成宮ののかさん） 「中山道での交通事故を減らすために」

私は、学校近くの中山道にある交差点に信号機をつけることについて提案します。

この提案をする理由は、まず、道幅が狭いため、事故が起きた場合、私たち小学生や高齢者の方々が事故に巻き込まれる可能性がとても高いからです。以前までは点滅信号がありました、それもなくなり、ここをよく通る地元の方たちも、この交差点に慣れているため、意識せずに通ってしまっている状況です。また、道の見通しがとても悪く、車をかなり前まで進めなければ左右の確認ができません。これらのことが原因で車の事故、中でも衝突事故が多く発生しています。私も何度か見たことがあります。そのとき、車がへこんでいる様子を見て、中の人や家族の人は大丈夫かなと心配になりました。

私は、車の事故での被害が少しでも減るように、鳥居本小学校近くの中山道にある交差点に信号機をつけることを提案します。

○第3グループ議長（上田蒼空さん） 都市建設部長。

○都市建設部長（藤原 弘さん） 成宮さんの「中山道での交通事故を減らすために」についてお答えをいたします。

道路の中でも、交差点は事故が起こりやすいところです。成宮さんの提案にある中山道の交差点も、交差する道路のどちらも狭くて見通しが悪い上、たくさん人や車が通行します。事故が起こらないように気をつけなければならない交差点となっております。

交差点を安全にするための方法として、ご提案くださいましたように、信号機を設置する方法が考えられますが、信号機の設置は警察のほうで決めておりますので、中山道の交差点について彦根署のほうに相談をいたしました。

警察のほうでは、信号機の数が増え過ぎると交通の流れを悪くしますので、一定のルールをつくって、そのルールに合った交差点などに設置をされております。中山道の交差点をこのルールに照らし合わせますと、道路の幅が狭く、車が安全にすれ違うことができないこと、また、信号機が必要なほどに車の交通量が多くないということから、信号機の設置は難しいと聞いております。

また、以前設置されていた点滅信号ですけれども、現在は撤去をされています。これは、点滅信号が設置されている数が少ないということから、見慣れない人が多く、しばしば信号を無視されると、かえって危険であるという判断で、地域の皆さんに相談した上で警察が撤去したものです。その代わりに安全対策として、彦根市と警察が相談いたしまして、交差点の中に路面表示を行って交差点があることをわかりやすくしました。

ご提案のとおり信号機をつけることは困難でありますけれども、交差点を安全にするためには、まずは通行する人が交通ルール、マナーを守っていただくことが最も重要だと思います。道路の交通の安全を向上させるために、市民の皆さんが交通事故防止に気をつけていただけるよう啓発を行ったり、また、道路がより安全になるよう改善したり、引き続き努力をしていきたいと思っております。

○第3グループ議長（上田蒼空さん） 成宮さん。

[16番（成宮ののかさん）登壇]

○16番（成宮ののかさん） ありがとうございます。

これで私の提案を終わります。

○第3グループ議長（上田蒼空さん） 17番林田莉奈さん。林田さん。

[17番（林田莉奈さん）登壇]

○17番（林田莉奈さん） 「琵琶湖で遊べる施設を増やしてほしい」

私は、彦根市に琵琶湖で遊べる施設を増やすことを提案します。

滋賀県の6分の1を占める琵琶湖は日本一大きな湖です。そのすぐそばに私たちの住む彦根市があります。

こんなに近いのに、私たちが琵琶湖と接する機会は余りありません。そこで、建物で遊べて琵琶湖でも遊べる、そのような施設を増やせば、身近にある琵琶湖と接する機会も増えると思います。琵琶湖は魚が豊富で、面積も広いので、釣りや水上スキーなど、いろいろなマリンスポーツを楽しめます。それに浜辺でキャンプやバーベキューもできるので、いろいろな目的で多くの市民や観光客が来てくれると思います。

また、施設に彦根市の観光マップを置いておけば、彦根市を観光してもらえるよいきっかけとなります。施設に少し工夫をするだけで、琵琶湖のよさも彦根市のよさも知ってもらえます。

以上の理由から、私は琵琶湖で遊べる施設を増やすことを提案します。

○第3グループ議長（上田蒼空さん） 市長。

○市長（大久保 貴さん） 林田莉奈さんのご提案にお答えをいたします。

琵琶湖は自然豊かであって、滋賀県民や彦根市民にとって大切なものでありながら、林田さんがおっしゃっているとおり、接する機会が少ないと思います。

琵琶湖は日本一の大きな湖であって、さまざまなレジャーが楽しめる場所です。また、京都や大阪の人々の飲み水にもなっているために、県民、市民だけではなく、もっと多くの人々にとって大切なものです。このような琵琶湖で接する機会を増やすことは大変重要なことだと考えています。

このような中、平成27年に「琵琶湖の保全及び再生に関する法律」が制定されました。これは、琵琶湖を自然環境や水産資源の宝庫として保全し、また再生することで湖がもたらす恵みを将来にわたって受け継いでいけるようにするという法律で、日本全体で琵琶湖を守っていくということが示されました。

また、この法律を受けまして、現在、滋賀県や彦根市を含む琵琶湖周辺の市では、自然を守りながら、もっと琵琶湖を利用や活用ができないか検討を進めています。これは「みどりとみずべの将来ビジョン」というもので、琵琶湖の将来像を示すものです。建物を建てて遊べる施設をつくるということも一つではありますが、貴重な自然を守ることや、琵琶湖を眺めながらゆっくりと時間を過ごす場所づくり、自然豊かな環境の中で集客施設の整備など、場所を特定しながら将来の方針を整理しています。

このビジョンは現在検討中ですが、12月下旬には県民に対して広く意見を聞く「県民政策コメント」、いわゆるパブリック・コメントが実施される予定で、滋賀県のホームページ上で意見が提出できることとなります。琵琶湖の大切な砂浜や松林の風景を守りながらレジャーが楽しめたら、琵琶湖に接する機会も増えて、琵琶湖のよさも彦根市のよさも、もっと知っていただけるのではないかと思います。ぜひ林田さんも滋賀県のホームページから意見を提出していただいて、県や彦根市役所だけではなくて、みんなで大切な琵琶湖の将来を考えていきたいと思えます。私も投稿したいと思えますので、一緒に投稿してみましよう。よろしくお願ひします。

○第3グループ議長（上田蒼空さん） 林田さん。

〔17番（林田莉奈さん）登壇〕

○17番（林田莉奈さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。

○第3グループ議長（上田蒼空さん） 18番劉孝淳さん。劉さん。

〔18番（劉 孝淳さん）登壇〕

○18番（劉 孝淳さん） 「ひこにゃんを広め、豊かな彦根市に」

僕は、ひこにゃんも、くまモンのように活動場所をいろんな都道府県や国に広げたいと思ひます。

僕は、最近有名になってきている、くまモンについてインターネットで調べてみました。すると、くまモンは日本だけではなく、中国など外国でも活動し、熊本のよさを伝えていました。それを見たとき、僕の大好きなひこにゃんにも同じようなことができるのではないかと思ひたのです。もし、ひこにゃんが世界で活動することができれば、彦根市のよさや観光スポットなどを多くの人に知ってもらえて、彦根市に来る観光客が増えると思ひます。観光客はお土産を買ったり、彦根城に行ったり、ホテルや旅館に泊まったりして、彦根市が豊かになると思ひます。

僕は、ひこにゃんを多くの人に知ってもらひ、彦根市を豊かにしたいので、ひこにゃんの活動場所を広げることを提案します。

○第3グループ議長（上田蒼空さん） 市長直轄組織参事。

○市長直轄組織参事（山本茂春さん） それでは、劉さんの提案にお答えいたします。

ひこにゃんは、劉さんや皆さんがご存じのとおり、大変かわいらしく、言葉の壁を超えて多くの人々に愛されているキャラクターです。そして、劉さんからご提案いただいたように、ひこにゃんが日本国内だけではなく、海外でも活動することは、海外の人に彦根市のよさや観光スポットなどを知ってもらったり、海外の人との交流を進めたりするのに大変効果があると思ひています。

このことから、ひこにゃんも、くまモンのように、平成21年のハワイを皮切りに、韓国のプサン、フランスのパリ、アメリカのロードアイランド州ニューポート市や中国湖南省、台湾の台北と高雄、イギリスのロンドンに行つて彦根市の観光をPRしてきました。また、

今年彦根市の姉妹都市でありますアメリカのミシガン州アナーバー市にも行って、海外の人との交流を深めてきました。

これからも、いろいろな機会を見つけて、ひこにゃんが海外で活動できるように考えていくとともに、ひこにゃんが海外からの観光客を含め、広く彦根市に来られる観光客の皆さんを温かくお出迎えすることによって、彦根市のよさを知っていただきたいと思いますので、引き続き、ひこにゃんを応援いただきますようよろしくお願いいたします。

○第3グループ議長（上田蒼空さん） 劉さん。

〔18番（劉 孝淳さん）登壇〕

○18番（劉 孝淳さん） ありがとうございます。

これで僕の質問を終わります。

○第3グループ議長（上田蒼空さん） 19番伊藤遥菜さん。伊藤さん。

〔19番（伊藤遥菜さん）登壇〕

○19番（伊藤遥菜さん） 「学校近くの溝について」

私は、学校近くの通学路の溝にふたをつけたり、危ないところに目印をつけたりすることを提案します。

平田小学校近くの通学路には、たくさんの溝があります。雨が降って溝の水があふれたとき、ふたがついていないと、溝と道の境がわからなくなり、大変危険です。今まで私も何回か経験したことがあります、通るとき怖かったのを覚えています。低学年や小さい子はもっと怖いと思います。また、溝にはまってけがをしたり、物を落としたりしてしまう人もいます。私も自転車ごと溝に落ちて、けがをしたことがあります。

溝にふたがないのは、田んぼに水を運ぶ用水路にふたをしてしまうと、溝の深さが浅くなり、詰まってしまうからだと聞きました。また、ポールや柵を立てられるのは溝の深さが75センチ以上でないと難しいとも聞きました。でも、私の通学路の近くに田んぼはありません。だから、溝にふたをしてもいいのではないかと思います。

そこで、私は、小さな子どもからお年寄りの方までが安全に道を通れるように、溝にふたをつけることや、それが無理なら、溝に沿って目印をつけて危険を知らせたりすることを提案します。

○第3グループ議長（上田蒼空さん） 都市建設部長。

○都市建設部長（藤原 弘さん） 伊藤さんの「学校近くの溝について」にお答えをいたします。

溝をはじめとする水路は、田んぼへ水を流すための役割だけでなく、降った雨をスムーズに下流の大きな川へ流すための大変大きな役割があります。先日の台風では、関東や東北地方のほうで大変大きな被害が出ておりますが、溝や水路は、道路や住宅地に水があふれるなどの被害をできる限り少なくするためのものです。

このことから、溝や水路にふたをしてしまうと、今おっしゃいましたように、断面が小さくなりますので、溝の上流部のほうで水があふれるなどの被害が出る可能性があります。

また、溝がごみなどで詰まった場合の掃除など維持管理がしにくくなりますので、市ではできる限り水路や溝などにはふたをしない、ふたをかけないようにしております。

しかしながら、伊藤さんがおっしゃるとおり、溝に落ちてしまうことなどのおそれがあることから、溝と道路に大きな落差がある場合は特に危険になりますので、一定のルールに従って安全のために柵などを設置しております。

また、落差がそれほどなくても、通行の危険となる場所においては、伊藤さんがおっしゃいましたように、目印になるポールなどを設置しているところもございます。

現在、市では溝などへの転落防止対策をはじめ、通学路の安全対策を重点的に取り組んでおります。これは、学校の先生や警察の方々と一緒に通学路を点検して、危険な場所を確認し、確認した場所が少しでも安全になるように対策工事を行っているものです。

これからも皆さんが安全に安心して通行していただけるように、さらに努力をしていきたいと思っております。

○第3グループ議長（上田蒼空さん） 伊藤さん。

〔19番（伊藤遥菜さん）登壇〕

○19番（伊藤遥菜さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。

○第3グループ議長（上田蒼空さん） 20番巴芳代子さん。巴さん。

〔20番（巴 芳代子さん）登壇、資料掲示〕

○20番（巴 芳代子さん） 「安全なまちにするためにコミュニティバスの運行を」

私は、彦根市内に地域住民限定のコミュニティバスを運行することを提案します。

私が住む日夏町や近くのみちではバスがなかったり、少なかったりします。バスがない、または少ないので、高齢者の中には買い物をするために車に乗っている人もたくさんいます。

資料1によると、平成24年以降の交通事故死者数は65歳以上が約50%を占めていました。また、資料2では、交通死亡事故の特徴の一つに高齢者による死亡事故が増加していることを挙げています。これらのことから、高齢者が交通事故にかかわることが多いと言えます。

行きたいところにバスで行けるようになると、高齢ドライバーも減り、より安全なまちになります。コミュニティバスの運行を目指すには、市民にも計画に参加してもらいたいと思います。病院や地元のスーパーなど、要望に合った場所に停留所を置き、バスの運行を高齢者が利用しやすい時間帯や曜日に決めるのはどうでしょうか。高齢者が免許を返納するときに、バスの案内や割引券を配るなどして、高齢者が運転をやめてバスに乗ってもらえるようになればいいと思います。

だから、私は、高齢ドライバーの数を減らして、より安全なまちにするために、地域住民限定のコミュニティバスを運行することを提案します。

○第3グループ議長（上田蒼空さん） 都市建設部長。

○都市建設部長（藤原 弘さん） 巴さんの「安全なまちにするためにコミュニティバスの運行を」についてお答えをいたします。

巴さんが今、資料のほうで説明してくださいましたように、交通事故の全体の中で高齢者がかかわる事故の割合が増えておりますので、高齢者が交通事故に遭わないように対策することは非常に重要な課題になっております。

そのためには、高齢者の皆さんが無理に車の運転をしなくても済むよう、気軽に利用できる移動手段があることが大切です。高齢者にとって、ご提案いただきました便利なコミュニティバスの運行を実現することは交通事故の減少に役立つものだと思います。

彦根市内には、巴さんが住んでおられます日夏町など、路線バスが運行していない地域がありますが、そうした地域では、路線バスの代わりに、路線バスのように時刻表や停留所が決まっていて、予約があったときだけ運行する、タクシー車両を使った愛のりタクシーを運行しております。

愛のりタクシーをどのように運行するかは、彦根市や隣接する愛荘町、豊郷町、甲良町、多賀町が集まってつくった協議会で決めています。協議会には市や町の職員、路線バスやタクシーを運行する会社の人のほか、老人クラブの方や障害者団体の方など住民の代表にも参加してもらって、路線バスや愛のりタクシーについて話し合っています。その中で、どのような施設に停留所を置くと便利になるか、時刻表はどうするかといったことを決めております。また、ご提案いただいた運転免許証を返納された方への対応についても、路線バスや、この愛のりタクシーの回数券をお渡しする取り組みも行っています。

安全なまちにするために、公共交通を充実させることはとても重要であり、これからもいろいろな人と知恵を出し合いながら、この愛のりタクシーなどの公共交通がより便利に利用していただけるよう改善をしていきたいと考えています。

○第3グループ議長（上田蒼空さん） 巴さん。

〔20番（巴 芳代子さん）登壇〕

○20番（巴 芳代子さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。

○第3グループ議長（上田蒼空さん） 21番多賀泰斗さん。多賀さん。

〔21番（多賀泰斗さん）登壇〕

○21番（多賀泰斗さん） 「彦根市の防災について」

僕は、彦根市の防災について提案します。

今年もほかの県で地震が起きたり、台風が近づいたりしました。僕は、子どもだけで家において災害が起きたときに、逃げるタイミングを知らせるためのものを設置することを提案します。

大きな自然災害が発生したとき、子どもだけで、スマートフォンや携帯もなく、停電してしまったら、逃げるタイミングがわかりません。そこで、そのようなときに防災無線的なものが必要だと思います。

また、滋賀県が平均寿命で全国上位になったことから、たくさんのお年寄りがいると思います。スマートフォンを持っていないお年寄りにも、確実に逃げるタイミングを知らせる必要があると考えます。

また、僕は、一度災害の訓練を行っていても、実際に起こったときにパニックになり、習ったことを忘れてしまうと思い、放送などで正しい対処法を伝えられるといいと考えました。

僕は、いつ彦根市が災害に巻き込まれても、しっかり避難できるように防災無線的なものをつけることを提案します。

○第3グループ議長（上田蒼空さん） 市長直轄組織危機管理監。

○市長直轄組織危機管理監（谷澤幸治さん） 多賀さんのご質問にお答えします。

近年、大型の台風や豪雨、地震などの災害により、日本各地に大きな被害が及んでいます。

こうした災害が発生したときに最も大切なことは、市民の方それぞれに命を守る行動をとっていただくことだと考えています。

そして、災害による被害が少しでも小さくなるよう、日ごろからさまざまな準備をしておくことが必要であると考えます。

市ではこうした事態に備え、国や県、放送機関などと連携し、市民の方々に対して的確で正確な情報を迅速に伝達するため、テレビやラジオでの放送、インターネットやアプリへの掲載、メールによる配信、防災用屋外放送設備からの放送など、さまざまな方法により情報発信しています。

多賀さんがご指摘いただいたように、個別に防災無線的なものを備えておくことは大変有効な方法の一つだと考えますが、市では、緊急時に広く各地域の方に呼びかけることができるよう、エフエムひこねの放送を市内各地に設置した防災用屋外放送設備からも放送して、市民の皆さんに避難していただけるよう平成30年度から計画的に整備しているところです。

また、市内各町の自治会長さんや自主防災会長さんなど、あらかじめ登録いただいた各地域の役員の方に電話やファックスなどで緊急事態をお知らせする緊急通報システムで一斉に連絡しています。

さらには、高齢者や障害者の方など、自分で避難できない方を援助するため、災害時避難行動要支援者制度により、各地域の民生委員児童委員の方をはじめ、事前に登録いただいた方が、対象の高齢者や障害者の方を連れて避難していただく仕組みもつくっています。

災害はいつどこで起こるかわかりませんので、日ごろから備えが大切であり、多賀さんのご提案も参考に、さまざまな災害対策を実践していきたいと考えています。

○第3グループ議長（上田蒼空さん） 多賀さん。

〔21番（多賀泰斗さん）登壇〕

○21番（多賀泰斗さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。

○第3グループ議長（上田蒼空さん） 22番野村一稀さん。野村さん。

〔22番（野村一稀さん）登壇〕

○22番（野村一稀さん） 「市民プールの建せつについて」

僕は、市民プールを彦根市につくることについて提案します。

今まで僕は長浜や能登川の市民プールなど、別の市のプールに行くしかなく、プールへ行くことが余りありませんでした。でも、市民プールが彦根市にもあったら、市民の皆さんも土曜や日曜、夏休みなどに気軽にプールに行くことができると思います。

僕の友達には、泳ぐのが得意という人もいれば、泳ぎたくないという人もいます。泳ぎたくないという人の中には泳げないという人もいます。しかし、市民プールは楽しいし、おもしろいので、泳げないという人でも、自分から進んで泳ぐと思い、教育的にもよいと思います。これをきっかけに泳ぐのが好きになったらいいなと思いました。

また、命を守る体験も行える市民プールがいいと思います。インターネットで調べてみたところ、川での事故率が44%、海での事故率が32%と高い数字が出ました。そこで、海や川での事故を減らすために、プールの中に海や川での危険から身を守るための事故対応施設を設置してほしいです。

僕は、今述べた理由をもとに、楽しく泳ぐだけでなく、危険から身を守る体験ができる市民プールをつくることを提案します。

○第3グループ議長（上田蒼空さん） 市長。

○市長（大久保 貴さん） 野村一稀さんのご提案にお答えをいたします。

野村さんのご質問のとおり、近くにプールがあると、水泳に親しむことができ、子どもたちだけでなく、市民の皆さん、多くの皆さんに喜ばれると思います。

しかし、プールを含めて、新たにスポーツ施設を建設するためには、土地を用意したり、建設に費用が要りますし、また、施設ができたとしても、施設を維持するための費用が多くかかってきます。そのために、将来の利用見込みなどを考えながら計画的に進めていくことが必要です。現在、彦根市では新しい市民体育センターの整備を最優先に取り組んでいるために、プールの建設は将来的な課題だと考えています。

また、毎年、川や海での事故、今、野村さんがご指摘いただいたように、大切な命が失われるケース、ニュースを聞くたびに、私としても心が痛む思いです。

野村さんが言われるように、命を守る体験はとても重要です。学校では、川、海において釣りや遊ぶときの安全指導を行っていただいたり、衣服を着たまま川や海へ落ちてしまったときのために、水泳の授業の中で着衣水泳をしていただいたり、皆さんの命を守る取り組みを行っていただいています。

新しいプールをつくることは今のところ難しいわけですが、いろんな施設を利用して、さまざまなスポーツに取り組んで、健康で安全な生活を送っていただきたいと願っています。

○第3グループ議長（上田蒼空さん） 野村さん。

〔22番（野村一稀さん）登壇〕

○22番（野村一稀さん） ありがとうございました。

これで僕の質問を終わります。

○第3グループ議長（上田蒼空さん） 以上で全ての質問を終了します。

これで第11回彦根市子ども議会を閉会します。

皆さん、お疲れさまでした。

午後3時46分閉会

会議録署名議員

第1グループ議長	野村一稀
第2グループ議長	山田大悟
第3グループ議長	上田蒼空
議員	渡邊幸大朗
議員	田中優美
議員	鹿乗誠